

京都石造墓標の変遷

—「布と石の考古学入門」から—

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 展示の様子

2017年度、京都市考古資料館と立命館大学文学部考古学・文化遺産専攻による「布と石の考古学入門」と題した合同企画展が行われました。「布」は縄文時代の編布がテーマで、「石」は京都市内の石造墓標を取りあげました。16世紀から19世紀はじめまでの京都市内から出土した年代の明らかな墓標を集めて、その変遷を明らかにしようとする試みです。ざらりと墓標が並ぶ、あまり見られない展観となりました(写真1)。近年、「寺町旧城」の大雲院跡と元春日小学校からまとまった墓標が出土したことで可能になった展示です。前後の時期を補うために、六角堂遺跡、鳥羽離宮跡、化野念仏寺、松ヶ崎庵寺[妙泉寺跡]、伏見城跡[真福寺跡]の資料を加えました。

図1は、大雲院跡から出土した年号が記されている242基の墓標の変遷を表したグラフです。五輪塔、一石五輪塔、舟形、板碑形、位牌形(櫛形)の五つの類型の墓標を10年ごとにまとめ、百分率で表したものです。横に足していくと100%になり、16世紀後半からの墓標の流行りすたりを窺うことができます。ただし、資料の母数が少ないと信頼度は下がるので、1560年代から1580年代と1690年代以降は資料的には十分とはいえません。なお、この表には入れていませんが、大雲院跡から明応8年(1499)の紀年のある五輪塔の地輪も出土しています。大雲院が豊臣秀吉の施策により寺町に移るのは天正20年(1592)頃と推定されるため、それ以前の年号をもつ

墓標の多くは前の寺地より移されたものと考えられます。

大雲院は浄土宗の寺院で、16世紀後葉から17世紀前葉ごろまでは一石五輪塔と五輪塔が優位であったのが次第に減少し、それにとともに舟形が増えていきます。両者には相関関係がありそうです。舟形は仏像の舟形光背を模したものと考えられ、上部に阿弥陀を表したキリクあるいは阿弥陀三尊を表したキリク・サ・サクの梵字があるのが一般的です。板碑形も主流にならないものの、一定の割合で存在するのが特徴です。これらに対して、位牌形は中世に系譜がなく、江戸時代に新たに生まれた墓標と言えます。位牌形自体は1640年代から存在しますが、これが最も優位な形式になるのは1680

年代と考えられます。

ついで、この位牌形が現在墓地で一般的に見られる角柱形へと推移します。角柱形は18世紀代にはすでに登場していますが、それが主流になっていくのは19世紀の終わり頃以降と考えられ、近代を代表する墓標となります。角柱形は、発掘調査でも遺物として取りあげられることが少なく、実際の墓地での現地調査が望まれます。

一方、石材も時代ごとの変遷・特徴があります。京都市内の墓標の石材として、花崗岩系、閃緑岩系、砂岩系の三つを挙げることができます。花崗岩は五輪塔や宝篋印塔など中世以来連続と使用されてきた最も一般的な石材で、「白川石」と呼ばれる在地の石材のほか、「御影石」など外から入ってきた石材があります。閃緑岩は全体

的に黒みがかった深緑色の石材で、京都特有の墓石材になります。特に天正年間から元和年間にかけては閃緑岩が主流をなし、慶長年間に作られる舟形のキリシタン墓碑も閃緑岩で作られています。その後、花崗岩が再び優勢になっていきますが、真福寺跡資料を見ると、18世紀に入ると砂岩が急速に普及する様子がうかがえます。これらは大阪泉州を中心に分布し、当時「和泉石」とよばれた砂岩で、軟質で加工しやすく文字が顕然なため、江戸時代を中心に近畿各地に広く展開しました。

最後に、墓地の調査について附言したいと思います。昨年、墓地の景観が大きく変わろうとしています。墓参りが行なわれなくなり、古い墓標が無縁墓として片付けられ、新たな墓が営まれるのは、墓

地のサイクルであり、墓の宿命でもあります。しかしながら、それらが無縁墓になる前に記録して残すことができれば、歴史資料として活用することができます。これは埋蔵文化財の事前調査の考えと軌を同じくします。

昭和初期に移転した真福寺の跡地では、地下から500基以上の墓が検出されました。大きな成果を上げた調査でしたが、さらに地上に置かれた墓標の記録が残っていればと思うと残念でなりません。墓標の悉皆調査が各地で行なわれ、歴史資料としての活用が図られています。京都市内では未だ組織的な調査が行なわれていません。石に刻まれた庶民の歴史にスポットライトのあたる日がくることを期待します。

(立命館大学 高正龍)

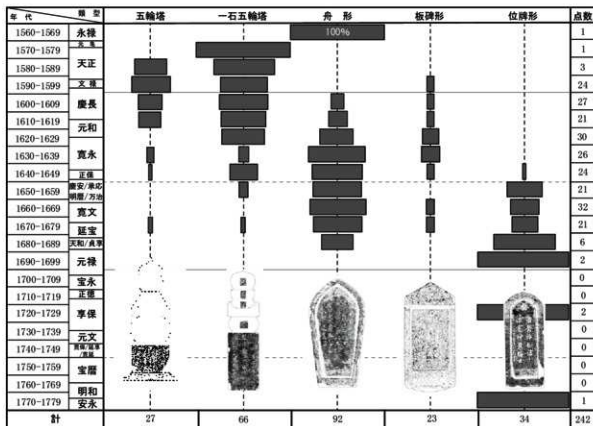


図1 寺町旧城【大宮院跡】の墓標の変遷図(横上千穂・作図)

*墓標に複数の年号がある場合は新しい年号を年代として採っている。